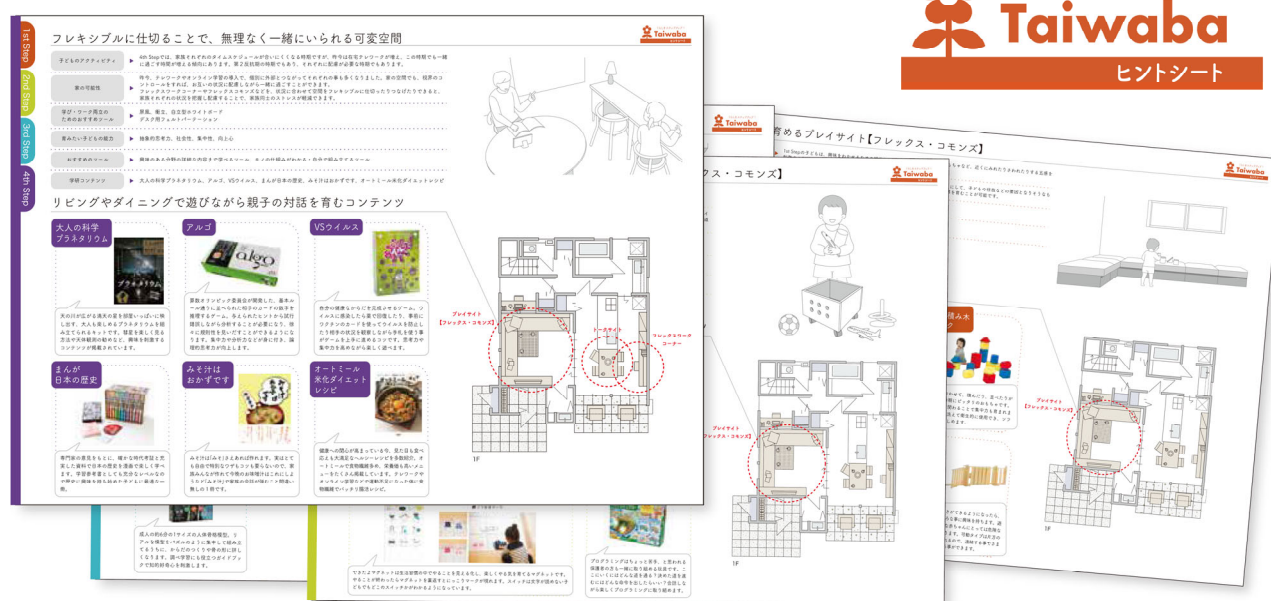


子育てに役立つ、「ホームコモンズ設計 2.0」の実践ツール
「Taiwaba」ヒントシートを作成

- 子どもの成長に合わせた、親子の対話に適した住まい環境と推奨玩具の新提案
- 知育玩具メーカー(株)学研ステイフルの推奨玩具とコラボレーション
- 提案内容を実際に体感いただけるワークショップも子育て中のご家族向けに開催予定



「Taiwaba」ヒントシート

ミサワホームグループのシンクタンクである株式会社ミサワホーム総合研究所（本社 東京都杉並区／代表取締役社長 千原勝幸）と、株式会社学研ホールディングスのグループ会社で知育玩具や文具のメーカーである株式会社学研ステイフル（本社東京都品川区／代表取締役社長 福本高宏）は、ミサワホームが子どもの成長段階に合わせた子育てや家族の暮らしかたを提案する「ホームコモンズ設計 2.0」を家庭で実践するため、成長ステップごとに親子の対話に適した住まい環境と学研の推奨玩具を組み合わせた「Taiwaba」ヒントシートを共同で作成しました。

このシートを活用することにより、住環境から具体的な玩具まで、子どもの成長に合わせた適切な育児環境を整えることができるようになります。

作成した「Taiwaba」ヒントシートは、ミサワホーム総合研究所 HP に本日公開したほか、今後両社はミサワホームのモデルハウスにおいて、子育て中のご家族を対象にワークショップも開催。シートに沿って適切な住環境を確認しながら、子どもに適した玩具を使い、五感や積極性、知的好奇心など育まれる子どもの能力について体感していただく予定です。今回作成したシートについて、子育てをする多くのご家族の参考にしていただくことを通して、より良い子育て環境の整備に貢献できるよう取り組んでいきます。

■「Taiwaba」ヒントシートはこちら

<https://soken.misawa.co.jp/news/20220712/2890/>

■「Taiwaba」ヒントシートの作成背景

ミサワホームは、創業時より子育てにおいて「家でできること」を真摯に考え、2012年に、子どもの成長ステージに合わせた子育てや家族の暮らしかた「ホーム commons 設計」を提案。2022年には、子育て世帯の変化やコロナ禍を通じた生活変容を踏まえて内容をバージョンアップし、ミサワホーム総合研究所のホームページに公開しました。[\(詳細はこちら\)](#)

学研ステイフルは、グループ理念「すべての人が心ゆたかに生きることを願い、今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します」の実現に向けて、知育玩具事業や学び文具の開発・販売事業に取り組んでいます。

「ホーム commons 設計 2.0」を家庭で実践するためには、より具体的なツールが必要と考え、両社共同により「Taiwaba」ヒントシートを作成しました。子どもの成長ステージごとに想定される行動特性や、育みたい子どもの能力と合わせて、子育てに適した住まいの工夫や推奨する玩具などを総合的に提案しています。

■年齢別各ステップにおける推奨玩具と住まいの工夫

「Taiwaba」ヒントシートでは、0歳から1歳のスキンシップで五感をはぐくむ「1st ステップ」、2歳から6歳の会話を通して想像力を伸ばす「2nd ステップ」、7歳から12歳の興味・関心から意欲を伸ばす「3rd ステップ」、13歳～21歳の親子一緒に思考力を高める「4th ステップ」、4つの成長ステップごとに合計40個の推奨玩具を提案。

例えば「2nd ステップ」では、会話が生まれやすいダイニングで「木製パズル日本地図」で一緒に遊んだり、子どもの自立心を育むために「できたよマグネット」や「くつおきマーク」を使ったりする提案をしています。

推奨玩具は学研ステイフル公式ページ [\(こちら\)](#) を通じて購入いただけます。

(一部参考例)



「木製パズル日本地図」

自分の住んでいる県などに興味を持ち始めたら、形や特産物と合わせて日本のさまざまな地域についてふれていきましょう。細かく見比べることができるようになる時期なので、形の違いなども自分の言葉で表現していくきっかけとなります。



「できたよマグネット」・「くつおきマーク」

できたよマグネットは生活習慣の中でやることを見える化し、楽しくやる気を育てるマグネット。やることが終わったらマグネットを裏返すことでこりマークが現れます。くつおきマークは玄関に貼るだけで、子どもが自然と靴を揃えたりくなります。貼ってはがせる素材です。



また、「2nd ステップ」では子どもが大人の状況を理解して配慮することは難しいため、在宅ワークで親が仕事に集中したい場合には、部屋を分けるなど子どもの視界をコントロールする工夫が必要です。そのため、扉にサインボードを掛けるなど、子どもに協力してもらおう環境づくりを提案しています。



「サインボード」

WEB 会議中・電話中・締め切り前など、子どもでもわかるように書いておくと、「いまはジャマしちゃダメ」と親の仕事に協力してもらえます。

以上

■この件に関する問い合わせ先

ミサワホーム(株) 管理本部 広報・渉外部 コーポレートコミュニケーション課 森蓉子
TEL : 03-3349-8088 / E-mail : koho@home.misawa.co.jp

(株)学研ステイフル 広報宣伝 滑川早子

TEL : 03-6431-1823 / E-mail : gsf-pr@gakken.co.jp

(参考)

■「ホームコモンズ設計 2.0」で提案する「子どもの成長段階に合わせた4つのステップ」

子どもの成長段階 (子どもに必要なkeyword)	育みたい能力	対話による学び成長	家族の課題	住まいの課題	学び・働く場のプランニング に大切なポイント
信頼関係 親子の信頼関係を確立する時期 	経験から五感を育む <ul style="list-style-type: none"> 視覚力(反応力) 基礎身体能力 信頼する力 	直接的(近い) ↔ 間接的(遠い) ふれあう ほめる/しかる 見て、見られて 安心感を与える	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムの変化への対応 ワークスタイルの変更、調整 家事/育児時間の増加による負担増 親自身の時間の縮小 	【共通課題】 <ul style="list-style-type: none"> 帰宅時に除菌・手洗いしやすい間取り 空気の衛生を保つ換気や空気清浄 仕事ができる場所 罹患時に隔離できる部屋 作業しやすいデスク環境 良好なICT環境 ・事故や怪我などが心配 ・泣き声などがダイレクトに入ってきてしまう ・舐めたり触ったりしてしまう	リビングなど <ul style="list-style-type: none"> 親が子に対して手が届きやすい距離感 家族のみんなが集まり対話をしやすい場所 どこからでも見やすく死角がない安全性を確保できる場所 ダイニング、キッチン、個室空間など <ul style="list-style-type: none"> 滞在時間に単独作業できる空間 寝ている子を起こさないように会話の音を遮断できる可変性(気配、音) ファニチャー <ul style="list-style-type: none"> 子どもに間違っていじられない管理できる収納 乳児用に必要可動式の育児用具収納 推奨玩具 6個
自立心、積極性、羞恥感克服 人格の基盤が形成される時期 	体験から想像力と語力を伸ばす <ul style="list-style-type: none"> 好奇心 想像力 会話意欲 生活習慣の習得 	直接的(近い) ↔ 間接的(遠い) チャレンジ 会話を楽しむ 見守る	<ul style="list-style-type: none"> 第一反抗期との向き合い方 子どもを媒介とするコミュニティーへの参画 夫婦の養育観の相違等による組み合わせ 衛生習慣の習得 通園による生活習慣の形成 	【共通課題】 <ul style="list-style-type: none"> 帰宅時に除菌・手洗いしやすい間取り 空気の衛生を保つ換気や空気清浄 仕事ができる場所 罹患時に隔離できる部屋 作業しやすいデスク環境 良好なICT環境 ・事故や怪我などが心配 ・キッチンなど危険な場面に近づいてしまう ・キッチンで行われている音が聞こえづらい ・家事などが協力しづらい	ダイニングなど <ul style="list-style-type: none"> 様々なモノを広げられる十分な広さのある場所 親の気配を感じやすい距離感 会話の題材が生まれやすい場や動線 ダイニングやキッチンなど <ul style="list-style-type: none"> 子どもの作業内容がわかる視認が届きやすい配置 子どもの興味を引く手元が見えるキッチン 多方向から共同で作業できるキッチン 危険な作業のときに子どもに入れないようにするゲート 個室空間など <ul style="list-style-type: none"> 邪魔されずに単独作業できる空間 子どもが遊んでいる声など、生活音を遮断できる可変性(気配、音) ファニチャー <ul style="list-style-type: none"> 親がセキュリティ上安全に管理できる収納 推奨玩具 8個
動機感獲得、劣等感克服 好きな事を見つけ喜びを感じ始める時期 	興味から意欲を引き出す <ul style="list-style-type: none"> 知的好奇心 論理的思考力 語彙力 感受性 	直接的(近い) ↔ 間接的(遠い) 一緒に遊ぶ きちんと会話 見守る姿勢を見せる	<ul style="list-style-type: none"> 進学による生活の変化 生活・学習の自立支援 家庭内学習時間の増加 ICTリテラシーの差 レジャー等体験学習の増加 子どもの権利の調整(小遣い等) 夫婦の教育観の相違等による組み合わせ 子どもの学校から社会への広がり 働き方、キャリアの再構築 	【共通課題】 <ul style="list-style-type: none"> 帰宅時に除菌・手洗いしやすい間取り 空気の衛生を保つ換気や空気清浄 仕事ができる場所 罹患時に隔離できる部屋 作業しやすいデスク環境 良好なICT環境 ・ゲームや遊びの音のうるさい ・ニュースや新聞など共有の話題が広がらない ・子どもが親に「できた」と見せに来づらい	ダイニングやリビングなど <ul style="list-style-type: none"> 家族が共同作業できる空間、家具 家族共通で使える道具を共有できる棚、収納 ダイニングやキッチン、リビングなど <ul style="list-style-type: none"> 親子がいつでも会話できる距離感 余計なものが映って子どもの気が散らない視界が確保できる場所 すぐに親に確認できるような子どもの居場所 個室空間など <ul style="list-style-type: none"> 親が単独作業できる空間 遮断できる可変性(気配、音) ファニチャー <ul style="list-style-type: none"> 家族それぞれが、セキュリティ上安全に管理できる収納 推奨玩具 11個
他者からの刺激、子どもへの信頼 自分の興味関心を形にしていく時期 	対話から思考力をつける <ul style="list-style-type: none"> 抽象的思考力 社会性 集中力 向上心 	直接的(近い) ↔ 間接的(遠い) 一緒に行う 経験に基づいたアドバイス 子どものシグナルを見逃さない 信頼を示す	<ul style="list-style-type: none"> 家事総量増加による負担増 生活時間のずれ違い 経済的負担の増加 第二反抗期との向き合い方 	【共通課題】 <ul style="list-style-type: none"> 帰宅時に除菌・手洗いしやすい間取り 空気の衛生を保つ換気や空気清浄 仕事ができる場所 罹患時に隔離できる部屋 作業しやすいデスク環境 良好なICT環境 ・それぞれが勉強や仕事をすると邪魔になる ・それぞれが一緒にいると居心地が悪い ・家族一緒にいる時間が減る(共有情報が減る)	リビングやダイニングなど <ul style="list-style-type: none"> 家族や友人知人などが共同作業できる空間、家具 家族共通で使える道具を共有できる棚、収納 一部にいてもストレスがない複数の居場所がある空間 個室空間など <ul style="list-style-type: none"> 親も子どもも一定時間集中して単独作業できる空間 家族それぞれが使用時間を決めて使える籠もり空間 オンラインに邪魔になる音を遮断できる可変性(気配、音) ファニチャー <ul style="list-style-type: none"> 本や物を飾れる家具、設え 家族それぞれが、セキュリティ上安全に管理できる収納 パーソナルスペースの家具の充実 グリーンなどインテリアの充実 推奨玩具 15個